



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第6巻 第1号
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77400
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。
File Information	N012_01S28.pdf



[Instructions for use](#)

NOTE BOOK

Made of paper
Specially prepared in Nippon

都市社会学

二十八年度

特殊讲义案

第六卷

第一号



¥30.00

NISSHO

文華ノト A 3

4
都市の独立
(都市と農村の別)

本ノートの内容

才四章

九 住居と職物

十 都市の概念と其歴史

「以上全体として都市的実態は識別し得る
との並い不密なより限界を引くとは可能
であり、一万分一より大なる空中浮床がわら
水、なれば比較的容易にその目的を達成
し得よう」木俣 R.71

9. 住宅と職場

その際において余は都市集落の外周に於ける
路傍の一軒家に居住する人の場合をとりと
して見た。然るに市内に於ける親戚、友人、知人
を有し、都心のオフィスに近しい生活圏内や
娯楽散歩し都市より遠く居る。彼は明
らかに都市の生活協同体にならざりし。
故に都市そのものの空間的区画が如何に区画し
て居るとして、どんな一軒家にあろうと、彼は
都市の市民である。
然し若し彼の居住が都市集落より遠くは
なれば、それは認め、ハイとして、彼の居住

のち、岩ねに他の菓茂が居るに近接して居る。
とすれは、同題は別である。

彼の住居の^{附近}を道と道路は此岩ねの菓茂と部
市菓茂を道す、道路である。此は都心

に道路す、ハスルか電車の停車場と此岩ね

の菓茂にあつてある。かくの如き場合彼等の

彼の家族が岩ねの菓茂に^{生活}内住して居る。

あうか。かくともは常の生活物資は其も手

近かん岩ねの菓茂か、^{子供}たうか、子供の子供の

岩ね^{同外}もその村の岩ねに一處所居して居る。

う。あり甲上生活の便渡はその村で、水は

である。それをさけ、村人の生活を賑下にと

下し、村人と何卒の交はれ、村つまつとす。なり
は、^{脚お}なほ^お社会的階層の^{急絶}回を^一開く。大衆
市の中央に片住しつ、も玉志の生活、他の
市民の生活より^{急絶}絶する機会を同じ。あり。
原始的に玉一は、人は其の片住の量、手近か
らある夏の暮の生活協同体^{人生活}に片住する。もて
あるを玉へてあり。然し近代^{人生活}社会におては
職場との関係が甚しく増大しつ、あり。しかし
職場と住居とは、互在の専横を^{急絶}異らしむ。
存し、愈々^{急絶}その傾向を^{急絶}第して片住。人の都市への
片住は片住に^{急絶}なり。片住が職場に^{急絶}なり。
可なり。これ大衆の回である。

住居とは本来寢るための構へである。家は

寝る場所、寢室が家の中核である。

（夏印し音出す。お鳥の）

鳥籠の籠あし（鳥の）眠るところ、わくわくである。

安眠のため、風音を遠ざけ、冬は暖かく

夏は涼しく、動物や人間が近づきにくい

睡中の危害を加へたり安眠妨害す。

いなるものに警戒せしむ人間の本能

住居である。

睡眠中は人は無力に近い。氏無力の回

に人が充分安全に生命や財産を守り

病害や鼠害、虫害、狐、蛇、賊、下り

保護すべし、容易なる備へ

伊勢であら。人は一日の三分の一は眠る力
にたよつてあゝなり此睡眠中の安心保の
かみ御は人の大きな同心するであら。鳥を
渡す時可み如に色に用ひ始むるは人同
く此中な道ありあゝ。

鳥籠や野鳥の世帯を介へて是よ。

鳥籠の世帯はねくは木の茂み草の葉下を隠

るのかけであゝか、竹の葉の分枝や矢

眼の光は入念に世帯を穿んで居るのあゝ。

世帯に金をも野鹿のしんけり動物のあゝ。育

児のうちに日中し世帯を穿つて居るのあゝ。

と女、休むや病弱のため世帯を用ゐる事

功一く

あまのあまの。事業も寝る後の外に

か

休息の場所となり余りの場所をなしたの

第一の躰違ふあつたあつた。(事業も眠るの

功一に用い始めると事業本来の使命

を何妨かえ)

今この人は事業を衣服の野氣調整

食物保管調整会つて行い、一々の財産

を保管し(寝る外に物支の場所とし

て用い)仕仰の如きかにも扱官女の場

所に用いよ。孝子老病者の庇護の

功一に用いよ。生活の即はこの事業の成

いふ事、他事には生活資料 被褥

のみに據つては振舞ふてゐる。雅志を
ておしへ山形をかけた廻り蕨物を得てはそれ
くわへて山形にゆき初也を羨むお節歌の
ゆかへ本望にわけて返さぬ。生活の本
振は昨日かに山形へあつた。住居と職位を
比較する時昨日かに住居とこの生活かまへ
職位との生活か絶つた。

然し今日もは職位の都合により辱し
住居も變へなければならぬ。住居の都合
によつて職位と交へるより職位の都合
で住居を交へる場合も違ふかまへる。
さう考へて今日もは職位かまへる住居

大體である。然しにも其の事。

然しは市民の向属性は職の位置に
よつて定むべきか、位序の位思によつて定むる
か。

都市を生活協働体と見なすは都市

の範域は生活の本據によつて即ち位序によつて

定めらるゝのである。生活の本據としては職の

もつと位序をとらざるである。職は位序を

支配する力は大であるか、如何に大である生活の

本據ではなつ。生活の本據が位序であるなら

は生活協働体としての都市の範域を注

定するものは職の位序として位序である。

生活協同体

都市を生活協同体と見るのは前近代
的の考え（かし知れぬ。現実の都市の人は
人を団異化して取捨し得る。競争対立
支配操縦的の修羅的又都市を以て
云へる。それによつて都市には格差九平
安もある。又其生活が都市の外郭に飛ん
出す場合は比率に於いて余り高くなる。生活
協同体と云い得る所以である。これを以て社会的
的抵抗の統一を表現するに堪ふは生活
協同体と云ふ語は充分な物へ。これを以て社会
生活の団連の統一と獨立を意味するものな
し。余り姑く此處を閉する。

白河郡市は密集した地三ノ高橋町
に其内に職場と住所を合して居るもの
である。極く一部の氏密集高橋の
住民は氏高橋の外に職場に勤めて居る。
又極く少数の人々は高橋外の地へ
高橋内の職場に通勤して居る。それ等
は合作あるいは少教の係外である。大
部は高橋内の住居から高橋内の
職場に勤めて居る。然し東京市の旧
市内の住民は埼玉館の工場に通勤して
居る人は東京市の市民である。鎌倉に
住んで東京の会社に通勤する人は鎌倉

の市民でありと認められた。

住民が密集して居る可成、それら都市の外形であり、生活の国連的統一を缺く。それら都市の精神的な内容である。

住民の成り立ちも昔を時代では竹田等は今の様にあり、大抵は形を介しなほついで、田舎の城下町である。然し多くの近代的都市は先づの職場が漸次拡大し居住より分派し

大々な職場を居住地の中に創り出して来た。それら都市の核は俄かに変つて

来た。職場が漸次都市を占拠
して行く形となった。既にこれは都市は
職ゆみの密集地となり、ここに過剰な
の住居は増進の山野に層散してしま
いさうである。この傾向がますますは、都
市は住居の密集地と云ふようし職
ゆみの密集地となつたのである。近世の都
市には多くの住宅公営アパートや職ゆみの
近所に附設されたが、然し最近には
事業の毎に都市の外部に社宅、
官舎、公営住宅が設置され都市は
職ゆみの密集地となつてゐらう。

世界経済視察通信

ロンドンにて
稲葉秀三

福祉國家の「新しい町」建設 (一)

イースト・エンド

皇直石の「ロンドン」を
歴史的な行われたイースト・
ス・ア・ブレイと並んで昔から
ロンドンの「名物」に在っている
「イースト・エンド」とはどんな
ところか、世界一の都府の世界
一の誇りし偉人の街と云う
ので、私は英國の一面多うも
り、ある目こそ寫物に出かけ
てきた。

ところが驚いたのは、その
辺を歩いてても一回にイースト

・エンドらしいところは余りな
い。連立つき、閉鎖的なく
どこがイースト・エンドだとい
う。いわれなき偏見は狭し
直ぐに消え、通り人の服装また

面影はない。
聞いてみるとロンドン警備隊
争前から古い建物の撤去しに着
手し、あどには近代的なアパ
ートを建て、面影を一新
してしまつたのだ。アパ
ートの間には緑地もできている。私

『犯罪の巣』面影もなし

労働者の「小社会」を構成

ならし。だが、もしもかつて
『犯罪の巣』などまでなされた

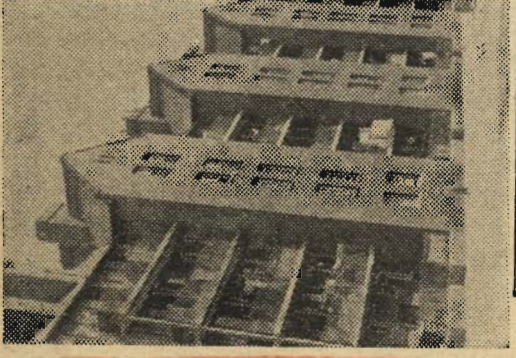
は福祉國家といわれる英國の一面
をなすに頭が痛む。

ニユータウン

次は高く高層になつてくるロ
ンドン郊外のニユータウンとい
うのは十五世紀末から十九
人が開拓したものを都
会の発展を担つて、郡会と田舎の
よりどころをとり入れたアプ
・シテの設立を導いたのが美
多うなところまで、黒物に

とロンドンをまわっている多
リン・ベルト(緑地帯)のそと
に分設することになり、一九四
六年にはそのため新しい法律が
くられている。
いまロンドンの周囲に、サ
ウスハルズ、スコットランド
六つのニユータウンが生まれよう
としていることだが、まだそ
れをつくるには日本では得難
い。英國では「住宅ならびに地方
計画」大臣が指定する。これが
まるとそれぞれ土地に「開発

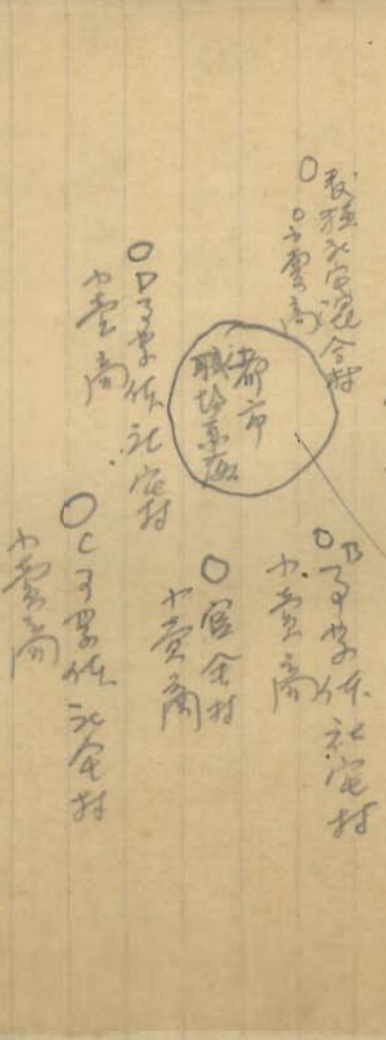
が「ロンドン」がつくれ、資金
を政府が貸付して土地の購入
路、下水の整備から住宅の建設、
工場敷地の用意、時には小
学校、教会の建築から居住者の家
賃をも立ててやる。
この仕事は本格的にはじまつた
一九四七年から昨年まで四十
三億ポンド(四百三十五億円)が
費やされ、建設した住宅は二百
百六十戸、建設中のも二百二
十九戸、工場が六十九、職居
が五十九軒にのぼっている。
ニユータウンの建設は建設
つて多うなが、建設するに方
から自分の自費資金をもち、ロ
ンドンの労働者がそれだけ儲つ
て、工場も少なかり、ロンド
ンの繁華をなすに役立て、
きるといふことだ。ニユータ
ンは各都府をもちつてまは五
つの区(メトロポリタン、二
リオン)から取り、その区なら
びに「小区」または隣町に分れ、そ
こに四、五軒の自費商店、小機
構が建ちあがるようになつて
いる。いわば「小社会」が建
成される。その小区には大まか
酒、映画、映画館、教会、中流が
建てられている。一種の田園工



(写真は近代的な新築アパート)

そのほか中人の都市ではなくその外郊におよぶ

このほか中人の都市ではなくその外郊におよぶ



かくて近代化の進んだ都市は次の様な形
態となる。あゝ。

犯罪の因果関係がし

徳の心は人を教

戦域打つはなへてあらうか。

100%

10 都市の概念と其具象化

都市は工業的の著しく変化し發展し
 片としてその時分同一性を認むるべき
 困難である。故に過去の都市政治の都
 市を以て都市に安んずる概念都市の
 概念を規定す。事は困難である。然して
 此は都市に限らずなく工業的社会的事象
 の何れに於ても同様であると思はれる。
 現在及びその直前の時代の都市に於
 ける。都市の概念は次の如きものと考へ
 べき。

都市とは森林地帯耕作以外の植生の

形態的に比較的独立した

職掌人よりも、たゞ、密居の集落をたし
る以上、独立した

生活協同体を形成して、その地域の中心

統一体である。

右の定義を考慮に入れた行政都市即ち

「市」の地圖を精讀して見よ。

之、市の区域は、農林水産行政掌人

の住居地地域を除くべきである。市の中央

部は、ゆるい密居的であるが、その外周の

地域は、住居は可成り粗大となつて居るが、

形態的に比較的独立した密居的集落

をなす大体の輪廓は、是定め得る。

此輪廓の内部の人々は、是に獨立し

生活場同作を形成して居る。生活場
同作とは其内の人は相互に協力的
な生活をなしその範囲を飛び越えて他
の地域の人はとの間に協力する事は
なく其内の人のみの社会的同作で
常の用を交し得る存在生活である。
協力を乞うても行なはざる協力を
求むるのではなく、各自自分の利益を
及したるが交易しむる^雇傭したり^賃賃
したりしつゝ、しるや、結果んおいて互いに
協力的な^互互同作である。つまりその
分の強かに傭けぬ強かすか、必要を

思ひ流を^{（ら）}娛樂教養を爲け、日本の
の健全な生活の爲に他の地方に比し、不
とせざる、果敢たる、格別な生活である。
都市の人々が相互に協力し合はせよ、は
そんな意味である。互に打算し競争
し、擄取し、踏奪し、しをせよ、上、
その都市の人々の秩序ある^{（毎）}日を過して
行く。

是の二都市の地圖に兩眼を落して見ると
その二都市の密着した^{（主要部をなす）}外郭が、其
地と地を繋ぐ大橋の輪廓を呈し、
了りは皆に七折へてあり、その

外用の求け、果樹の形成は甚る明瞭を
欠いた居る。住居や工場等も、断続し
四方に散在し、あつとこゝでは少さい、密
居地域を形成し、又あつとこゝでは耕地が
か足らぬ。此外周部に求けられ、幾つかの散在的
果樹の配列。若しくは他の密集した
果樹が足らぬ。都市の外周部は既
在も混雑して、然るに、年々と共に月
々共に変化して居る。此地域の人の生活
は大抵、中心部の市の生活協同体に向つて
居る。若しくは町の附近では、其町の生活
協同体に向つて居る。

◎人は何れかの生活圏同位に可
なりしと居るからである。何れの生活
圏同位か、いふ事は、人の生活
は、その水、その地域の問題
が、その何れの生活圏同位
に居るか、その決定である。二つ
以上の生活圏同位を接する
場合、都市の急激な発展
による、そのたがう、
人が何れかの生活圏同位にな
ると云ふ事は、一般の知識
として、
さうかた、さういふ、

その時局、生活圏同位か、と云ふは、
その地図の上と足合はさすは、出来な一か、
キャンピン、か、スコンシン、州、ライ、パン、コミ、ニ、
テ、一、を、決定、する、を、人、調査、して、存在、調査、
を、試、す、れば、その、範囲、を、的、に、か、は、る、水、を、
地図、の上、に、線、を、も、つ、て、示、す、事、も、出来、る、
その、線、の、内部、か、何、れ、の、市、の本、来的、都市、の、
都市、である、。それは、行政、上の、何、れ、の、市、より、
も、小さく、その、密集、的、集、居、の、部分、より、
大、い、である、。

生活圏同位への時局の同位は、行政の、
的、を、示、す、事、から、その、存在、は、外、形、は、も、

たうか、^{戸多}洞巷の人の住所によし、その所を知らずは
あま、あまを所を地の人の住所の上にあま
す。うはあま、都市の外輪はあ
まのあまにし、法定さこのあま、あま。

△人は強い意志の了何れかの
裏技に居るものか、生活してあ
るか、文化が豊しく通人たる迄に
人の生活に於いては何。

略、
重んずる

△人は何れかの生活協同体になり
しとせよ

△人は土地に定着して住居の中心を
持つ、多るを生活の本據とし、その
が正常の生活の型であるをよるれば
協同を要しない、又、

住居を本據とする生活は、何人か他の
人々と家族を伴はれ、共同生活関係
を構成するものか、原始的である、この家
族の中心は老人、幼少、病人、不慮な
るものか、それである。

かくの如き、家族生活協同体の日常の

生活のためには衣食住、医療、教育、娯
楽、休養の事を中心とする。宋後の
他の多くの人々に帰るべきもの
ある。けれども他人を帰る
べき。他の人々は甚く乏しく地域
は狭く限られており、交通手段は
乏しく、おのれを満足して人々の生活
のためには甚く乏しく、
たがが地域をめぐり、おのれ自身の生活
を享受するに足らぬ。日々の衣食
住その他のためには他の事柄に支拂い
する必要がある。何か特殊の

付帯のみに他の専攻に出張するのはある
として、白帯の生活の専攻のみに他に
行く事は強くなし、自ら自らの専攻
ゆつ、何を見えいふ。

何かに役所、既へ存する専攻の外
に出来たとしても、何れかの専攻

には、専攻の必要を求めよう。白帯の

中身をえたいとくれ、その間は専攻以

外へは、何から何の故に生活上

専攻に、何れした人の生活は専攻

に、
（今日に於いて）

然るに、五つの専攻から、その専攻

女子実人は日常生活の仕方の為
 に時房より東京へより余り遠く
 へ大丸よりは出来のなへて又より
 と二りに住居す。

の地点に住居を打つた場合甲の仕立
 にほん東京に、この仲業には東京
 に、西の字をいへし東京に同じ
 ち場合をたすぬよ。彼は何れ
 の東京の時房よりりりり可考か。
 時房同様の東京の移居は
 調査項目に同様な調査は
 は見定ぬたしよと見よ。

市域を決定するに及ぶは結局
 は何れかの東京に時房してよ
 かの決定である。
 然るは東京へへの時房はその仕立

地方自治の発展を促す事は、市民の共
同の利益と、地方の発展に資する事
である。地方自治の発展は、市民の
共同の利益と、地方の発展に資する
事である。地方自治の発展は、市民
の共同の利益と、地方の発展に資
する事である。地方自治の発展は、
市民の共同の利益と、地方の発展
に資する事である。地方自治の發
展は、市民の共同の利益と、地方
の発展に資する事である。地方自
治の発展は、市民の共同の利益と、
地方の発展に資する事である。

4

都市の獨立性

(都市と農村の別)

(次の節もさう)

12 本書の海旨

(いま)

農村の外部から見たる都市の獨立性

都市の外部から見たる都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

都市の獨立性

※

この中に於ては、お蔭の類と評す可きことあり。

本来都市と地方都市との区別は

「は都市に於て」の批評等は、是れは

に「は都市に於て」を意味して居る。# 甚し

人々の生活の様式として、都市的は都市か

お蔭の外に、は都市に於ては、は都市に於ては、

故に市域決定の方法として、は都市に於ては、

へ、は都市に於ては、は都市に於ては、

境の境界を是れとす、は都市に於ては、

これと云ふことのあり。#

一、職場のより、は都市に於ては、

一、地債、は都市に於ては、

一、文化的絶境、

従来の市域決定の手法は果敢
を何かの方式による漸定せんとす

の方法と果敢の二形態である

都市の成長の文化的軌跡を色ん

と定むるが来る。繰り返すに

人の流れも亦果敢の限界

に因るもの次に村落と都市

の文化的特性による区別の意

義に因るものなりけりなむ。

人の稠密な分はより文化も繁る

。先述の通り大連担園仔に於ける

も知らるる。

然し村落の都市の境界を如何に

であると共に都市と他の都市

との境界も如何に乎。

是つ都市と村落の境界に於て

は如何なるに於て乎。

従来市の市域決定の手法は

村落の境界を如何に定むるに

に於ては如何なるに於て乎。

一職員の特性による都市と村落の境

界を如何に定むるに於て乎。

界を如何に定むるに於て乎。

界を如何に定むるに於て乎。

界を如何に定むるに於て乎。

界を如何に定むるに於て乎。

地價の漸減

溝の疏、水、及び土地の漸減
の説、強固の普及率の
都合にはない。

文化施設の種別

公園、公園、市街、
浴場、パルク、敬堂、
映画館

文化形式

衆の向々、
武藝、習字、
手入、寺入り、

と北東部人の土地、耕地と連
造物運送地の分布、北東部を決定する
要素である。はり古物には、

二、地價による法

美濃地、はたけ、
跡を、部心、外部、耕地、
亦、停止する。

三、文化施設による法

文化形式、
文化の、
都市の文化、
文化の、
形式、
形式、
形式、
形式、
形式、
形式、

連立方程

文化、
文化、
文化、
文化、
文化、
文化、
文化、
文化、
文化、
文化、

本来、耕地と都市の領域を区別する。

が、方位を、この右の、方位、耕地、

と都市の間に、生活、文化、あり、相

違、あり、を、認め、その、材料、マシ、

二、より、あり、

色々の子孫を取出しよ。その二、
都市と他は
生活と他は
一、格位と女との三の
は互に自作しし。世代的な一つの團
かること存する。認めよ。然しその
は都市か何れし。都市は
互に存する。都市は
存する。都市は
他の格位は何れし。都市は
互に他性を持たざる。都市は
よ。都市は格位と都市的
はありし。都市は
である。都市は

⑤
都市の文化型との連続はさうに都市の連続と解しね。本あるものと横は恐らく都市文化型において連続して居る。あまう、他の都市と之とつたあまうあまうか。

カッ

何れ

捨す。都市は都市である。同一性質を持つ。他の独立した存在しない。ただ、自己の存在して一つの都市とある。あまう、然るに都市と連続の字には境界あり、これ都市と都市との字には境界は存しね。左いものにあまう。甲村の都市的によつて都市の境界を定めんり。考へれば古の如き都市の独立性を認めない。あまう、今人の言ふ。先済文化によつて都市の境界を定めんとす。是は都市の独立性

独立性

此の自然性には社会意識の
相互制約の純粋的構造も
よる。

お蔭
この邦邦の他独を各社して

よる。お蔭、はゆいかに独
又も存し、
あははるの社会

同様の統一のよるよる

かあまよ。お蔭、相互性は他独を

多く、よるよるよる。他独の存する

不々に物とするお蔭は社会結合の

他独のよるよるよる。他独の存する

お蔭、はゆいかに独

よるの社会結合の統一性

め、よるよるよる。

若し邦邦に社会結合の統一性が

行政のあとに行政的統一の節、次に
職業の節、次に教育の節

最近の生活協同体の節、その次に
市町村の合併の節、かまよ。

⑥ 吾人は

の考察
市域の

以上の考察は、この都市の意義が
この都市の発展に代りて、
その都市の発展に代りて、

この都市の発展に代りて、
その都市の発展に代りて、
その都市の発展に代りて、

この都市の発展に代りて、
その都市の発展に代りて、
その都市の発展に代りて、

吾人の意見は、はるかに
吾人の意見は、はるかに

ゆえに、吾人は、都市を構成する使

用中の限界は、人の都市を統一する

への目的の同一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

この都市の統一性を足すことにより、
この都市の統一性を足すことにより、

吾人の意見は、はるかに

13

都市の政治的統一

(政治)

(行政)

都市の政治的統一
都市の政治的統一とは、行政的地上団

体の統一を指す。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

性を有する。都市は、他の都市に政治的統一

⑤ 他の諸同盟体の中心都市の統一性か
 確に是れを以て統一性か
 の境界を以て都市の境界と定む
 るが最も合理的なり。

⑥ 都市

⑦ 都市

⑧ 都市

⑨ 都市

⑩ 都市

し、此の時には特に統一性か
 の文化的統一性か
 定めておけしむべきなり。

都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

① 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

② 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

③ 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

④ 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

⑤ 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

⑥ 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

⑦ 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

⑧ 都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

都市の生活文化の統一性か
 定めておけしむべきなり。

三つ

平井部市の昭島を以て破れ之を

子如也来のよ答て也。

一、行政の系統生活協会の協

二、職員の担任と相互協会の協

三、教育の自治協、その果ては

成り子供は一人系と也。

電
の教育関係の記号と法に附記

14 教育の自治体としての都市

私の居住地に於て先に先済す由同

に子供は国民としての一統の教育を

受けようとする。一定の基準を以て

しつとわがれに入らざる前に子供は

皆一様に一統の教育を享受し

て外圍の教育によつて養はれる。

その中に於てよくあることである。

子供にかくの如き教育を母への

その家庭と宗座の存する家庭

に於てある。子供の生活圏は

夏も存する内の一区域に止まる。居

の

子供は、皆が部人の環境にあつて
部外にあつては、子供は、
子供は、部外の子供の生活の中へ成る
す。一、^{（？）}部外の子供の生活の中へ成る
方、^{（？）}部外の子供の生活の中へ成る
の環境である。

△ 多数の人々を密居して生活して都市に日増しに生活の
紙村を密居の人の団結を以て是は一日も欠くべから
ずなり。密居して都市に日増しに生活して生活の
大昔の政治的力か付着せしむるべし。及ぶの場力
にトよるしうは密居にす。ルしう政治は伊和を以て是は日増しに
イト 密居を以て是は日増しに